

- 西宇和のみかん産地では、高齢化等で毎年約50戸が離農しているが、新規就農者は親元を中心に年間約20人で、**産地を維持していくうえで担い手の確保が課題**。
- このため、**体験・研修・就農・定着までを一貫してサポートを行う就農支援チームにより全域をカバーできる体制を整備**するとともに、**意欲ある就農者の確保・育成に取り組んだ**。
- その結果、**就農支援チームを設置した地区が増加**するとともに、**移住就農者の確保に繋がり、定着率も向上**。

## 具体的な成果

## 普及指導員の活動

## 1 就農支援チームの設立

- 既存の就農支援チームをモデルとし、他地域に波及。



## ○ 設立地区

H30: 6地区

→R4: 12地区

## 2 移住就農者等の確保

- 県内外で開催される就農相談会に、一次産業女子ネットワークと連携して参加し、確保に寄与。
- 完成した就農PR動画をマスコミに発表するとともに、YouTubeによる配信等を行い広くPRを実施。



## ○ 移住就農者

H30: 4人

→R4: 25人(累計)

## 3 新規就農者の定着率向上

- 年間6回の「シトラス講座」開催。コロナ禍では研修動画のCATVによる放映やYouTubeによる配信で新規就農者の技術力が向上。
- 早期の経営安定のため、3つの経営指標モデルを作成。

## ○ 就農5年後の定着率

H30: 96% ⇒ R4: 100%



## 平成30年度～令和4度

## 1 就農支援チームへの支援

- JA、市町等の関係機関と連携し、集落や共同選果部会の役員、生産者等を対象とした就農支援チーム設立検討会を開催し、設立を支援。

## 2 移住就農者等の確保

- 県内外で開催される就農相談会で研修・補助制度等について情報提供。コロナ禍では、オンラインによる就農相談会に参加。
- 青年農業者と連携し、就農に向けたPR動画の作成を支援。

## 3 新規就農者の育成

- 現地講習会「シトラス講座」を開催。コロナ禍では、非接触型の研修を追加。
- 儲かる農業推進チームによる重点指導の実施。

## 普及指導員だからできたこと

- ・ **各機関の役割を明確にするとともに、移住就農者の支援体制を構築**したことで、関係者が一丸となって移住就農者を支援できた。
- ・ **既存の就農支援チームがモデル**となるよう、受入状況を把握し、受入体制を見直すことで、効果的なサポートにつながり、**他地域に波及**できた。

愛媛県

# 意欲ある就農者の確保と定着促進に向けた就農支援パッケージの構築

活動期間：平成30年度～令和4年度

## 1. 取組の背景

西宇和のみかん産地では、高齢化等で毎年約50戸が離農しているが、新規就農者は親元を中心に年間約20人で、産地を維持していくためには担い手の確保が課題となっている。

近年、他県からの移住就農者が増加する中、体験・研修・就農・定着までを一貫してサポートする「就農支援チーム」を設置して受入れを行っている地域がある。こうした取組みを他地域に波及させ、管内をカバーできるよう受入体制の整備を進めるとともに、新規就農者の研修体系を構築し、就農パッケージ（確保と育成）の形態で、意欲ある就農者の確保と定着を促進する。

## 2. 活動内容（詳細）

### (1) 「就農支援チーム」への支援

移住就農者の受入れについては、関係機関の役割を明確にするとともに、移住就農者の支援体制を構築するための支援を行った。

既にチームを設立した地区では、効果的な研修となるよう関係機関と協議し、受入体制の強化を図り、近隣地域に取組みが波及するよう支援を行った。また、

「就農支援チーム」を設置していない地区においては、関係機関と連携して、集落や共同選果部会の役員及び生産者等を対象に「就農支援チーム設立検討会」等を開催し、設立を支援した。

### (2) 移住就農者等の確保

毎年度、研修生の確保や研修計画等を協議する「就農者確保検討会」を開催し、確保方針を策定した。

県内外で開催される就農相談会に参加し、地域の特色や研修・補助制度等について情報提供を行った。コロナ禍においては、西宇和みかん支援隊や一次産業女子ネットワーク・さくらひめのメンバーと連携

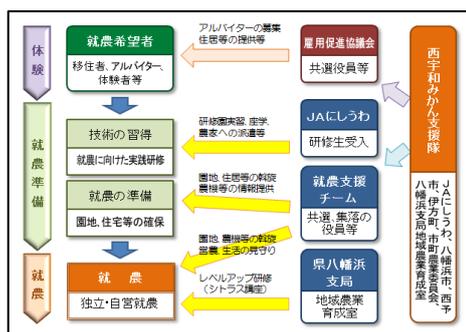


図1 移住就農者支援体制



図2 オンライン就農相談

し、オンラインによる就農相談を実施した。また、対面による相談等の実施がなくなったため、青年農業者協議会と連携し、ホームページ等で活用できる八西地区PR動画の作成を支援した。

### (3) 新規就農者の定着率向上

柑橘の剪定や摘果など、新規就農者向けの現地講習会「シトラス講座」を開催した。コロナ禍においては、集合研修の実施が困難であったことから、オンラインによる研修に変更し、コロナ後は、動画配信と現地講習をそれぞれ開催した。

令和4年度からは、前年度に新規就農した20人を重点指導対象に選定し、関係機関等で構成される「儲かる農業推進チーム」による技術・経営指導を実施した。



図3 重点指導対象への園地巡回

## 3. 具体的な成果（詳細）

### (1) 就農支援チームの設立

13地区での担い手支援チームの設立を目標に支援を行い、12地区で支援チームが設立された。残る1地区についても、担い手の減少に危機感を抱く中、「就農支援チーム設立検討会」を開催したことで設立に向けて機運は高まり、準備が進んでいる。



図4 担い手支援チームの設置状況

### (2) 移住就農者の確保

就農相談会に農業者とともに参加し、相談支援を行うほか、完成したPR動画は相談会等での積極的な活用や動画投稿サイト（YouTube）での配信・愛媛県ホームページでの公開など、移住就農者の確保に努めた結果、累計の移住就農者数は目標20人に対し25人となった。



図5 PR動画収録

### (3) 新規就農者の定着

就農5年以内の新規就農者を対象に「シトラス講座」を年6回開催した。コロナ禍では、効果的な技術習得に向け、研修内容や開催方法の見直しを行

い、地元ケーブルテレビや動画投稿サイト（YouTube）を活用した結果、5年後の定着率は100%となった。

また、重点指導対象者が年収1千万円以上の農業者となるよう、「儲かる農業推進チーム」として、「温州みかん専作」、「温州みかん+中晩柑」、「中晩柑」の3つの経営指標モデルを作成し、経営指標に取り入れたマルチドリップ栽培技術の実証試験を実施し、被覆資材の検討を行った。



図6 動画を活用した講座

#### 4. 農家等からの評価・コメント

○八幡浜市内新規就農者 U氏

移住就農者にとって知らない土地での農地、機械・施設等の確保は非常に難しいが、「就農支援チーム」のお陰で、研修期間中から受入地域の農家を知ることができた。また、就農に当たって農地や倉庫等を斡旋していただき、就農までスムーズに進んだ。本地域では、アルバイトを経験して就農するケースが多く、私自身もそうであったことから、アルバイトを受け入れやすい環境を整備していきたい。

#### 5. 普及指導員のコメント

南予地方局農林水産振興部八幡浜支局地域農業育成室

○技師 菅原 大士郎

全国でも有数の柑橘産地である八西地域においても、担い手不足等による荒廃農地が増加しており、親元就農やUターンだけでは産地維持が困難な状況にある。このため、新規就農者とりわけ移住就農者の確保・育成が急務となっており、関係機関が連携し、地域一丸となった取り組みが必要である。本取組により、若い農業者が安心して暮らせるよう早期の経営安定を図るとともに、儲かる農業の実現に向け年収1千万円以上の農業者を育成し、農業の魅力を発信しながら、移住就農者の確保・定着を目指したい。

#### 6. 現状・今後の展開等

- ・効果的な新規就農者の確保に向け、県内外の就農相談会の出展支援に加え、収穫アルバイトや県内農業大学校生を対象に就農を促す。
- ・「儲かる農業推進チーム」による濃密指導に加え、マルチドリップ栽培実証の結果や年収1千万円のモデルの提示などにより、早期に年収1千万円農業者を育成し、経営安定を図る。